

長寿科学研究開発事業
令和 7 年度終了課題の事後評価について

令和 8 年 8 月
国立研究開発法人日本医療研究開発機構
データ利活用・ライフコース研究開発事業部
ライフコース研究開発課

事後評価は、各課題の研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の研究開発成果等の展開及び事業等の運営の改善に資することを目的として実施します。

長寿科学研究開発事業では、令和7年度をもって終了した課題に対し、本事業における事後評価の評価項目に沿って、課題評価委員会において、書面・ヒアリングによる事後評価を実施しました。

事業について

本研究事業は、高齢者が老いや高齢者特有の疾患または病態等に罹患しながらも、その人らしく生活を送るために必要な医療や適切な介護の提供に資する研究開発を推進しています。今後、医療や介護人材の確保が更に難しくなり労働力としての制約が強まる中で、限られた人材・資源によって効率的かつ質が担保された医療・介護を提供して高齢者の生活を支援するため、科学的根拠に裏付けられた技術開発や費用対効果を踏まえた新たな提供体制の提案等が必要とされています。

老年医学領域における研究を基礎として高齢者の生活を包括的に支援する基盤整備を推進する観点から研究を進めています。

評価対象課題(1 課題)

No	研究開発課題名	研究開発 代表者	所属機関	役職
(公募課題名)高齢者の生活機能および累積型フレイルティ等を継続的に評価できる汎用的な手法開発				
1	内在的能力も評価可能なフレイルティ指標の多職種連携開発	大塚 礼	国立長寿医療 研究センター	部長

評価内容

計画通りに研究を着実に進め、地域住民、医療現場、在宅医療及び介護の場にて共通して使用することのできる FR-IC Index の開発に加え、その学術的意義や社会的意義を示すこと、また、国立長寿医療研究センターの Web サイトで手引きとともに公開しており、成果の公表、普及を図っていることが高く評価されました。今後、Index の普及に対するフィードバックを元に、エビデンスの強化、適用範囲・限界の明確化や予測への応用が期待されます。

評価のスケジュール

書面審査実施期間： 令和8年6月19日(金)～令和8年7月9日(木)
ヒアリング審査： 令和8年7月15日(水)

課題評価委員 名簿

氏名	所属・役職 等
石井 恭正	東海大学医学部医学科基礎医学系分子生命科学・准教授
大庭 幸治	東京大学大学院情報学環/学際情報学府・教授
○小川 純人	東京大学大学院医学系研究科老年病学・教授
後藤 温	横浜市立大学医学部公衆衛生学・主任教授
鈴木 友理子	富国生命保険相互会社・社医
田高 悦子	北海道大学大学院保健科学研究院地域看護学/公衆衛生看護学・教授
永井 久美子	東京科学大学医学部総合診療科介護・在宅医療連携システム開発学・特任講師
中山 健夫	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野・教授
◎渡邊 慎一	横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター・センター長補佐
渡邊 多永子	筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野・准教授

※◎は当委員会委員長、○は当委員会副委員長

PS・PO

	氏名	所属・役職 等
PS	神崎 恒一	東京都健康長寿医療センター・センター長
PO	數井 裕光	高知大学医学部神経精神科学講座・教授
PO	鈴木 みずえ	浜松医科大学医学部看護学科・特命研究教授

評価項目

- ①研究開発達成状況
- ②研究開発成果
- ③実施体制
- ④今後の見通し
- ⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥総合評価

以上